

舞踊会開催における新型コロナウイルス感染症対策について

公益社団法人日本舞踊協会
コロナ対策チーム

新型コロナウイルス感染症の拡大から1年余り、基本的な感染症対策は広く知られるところとなりました。しかしながら現在の感染拡大状況を踏まえると、当面の間は新型コロナウイルスとの共存を強いられることが予想されます。会員の皆さまも活動再開に向けて大変に苦慮されていることと存じます。

そのような状況の中、少しずつではありますが、全国的に舞踊会も再開の動きがみられます。ここでは舞踊会開催にあたって特に想定される基本的な対策をお知らせいたします。

これらの対策方法は協会が公式に制定するものではなく、あくまで参考の情報です。舞踊会の開催方法や規模、会場規模や設備等により講じるべき対策は一様ではありません。地域の感染状況や、会場が設定するガイドライン等を十分に把握し、舞踊会開催をお願い申し上げます。

対策を講じながらの舞踊会開催の実績が増えていくことで、日本舞踊界全体に明るい兆しが訪れることを願っています。

何卒ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

【開催準備段階での注意事項】

- 出演者やスタッフの人数、開場時間、開演時間、上演時間、各回の入れ替え時間などを密にならないよう舞踊会の構成を設定する。
- 舞踊会に関係する出演者、スタッフは日頃よりこまめな手指の消毒や体調管理など基本的な対策に努め、体調不良者が確認された場合の対応等は事前に決めておく。

【楽屋・舞台における注意事項】

- 入退館時の検温・消毒や楽屋の収容人数設定などは会場のガイドラインに従う。
- 履物や荷物は各自で管理する。
- 楽屋の換気を十分に行う。
- 化粧について

化粧はマスクを外しますので、最も感染リスクが高まる機会です。下記の順で感染リスクを下げることができます。

- ① 化粧は自前の道具で、自ら化粧を行う。
- ② 顔師を依頼する場合も、道具は全て出演者各自で用意する。
- ③ 顔師が出演人数分を用意する。その場合は費用等について事前に顔師とよく相談する。

●衣裳・床山・顔師

各スタッフ、近距離での作業となりますので、マスクに加えてフェイスシールドの着用する、また支度する出演者が変わる度に必ずこまめに消毒を行う。

●演奏家・後見

舞台の広さなどにもよりますが、マスクやそれに準じる布の着用などを推奨します。

●御簾の鳴物連中

広さに応じて人数調整行うなど、密にならないようにする。

●楽屋見舞いについて

楽屋見舞いについては、人の往来により密になる状況が発生しやすく、感染リスクが上がりますので、劇場の規模（楽屋の大きさ）などに応じて、ルール(原則禁止、出演者一人につき〇人まで可など)を設定することを推奨します。

●飲食

必要以上の飲食はお控え下さい。

【ロビーにおける注意事項】

●チケットのもぎりをお客様自身が行う。

●受付でのお預けチケットのやりとりなどを極力控える。

●物販や配布物の配布は極力控える。

●上記を含め、会場毎のガイドラインに則ってください。会場によっては、サーモグラフィーの貸与など対策設備などの貸し出しを行っている場合もありますので、十分な事前打ち合わせを行ってください。

以上